

屋外近隣様用 43 インチ タッチモニター

建設現場向けデジタル交流看板
ご近所様モニターTM

設置前の 準備について

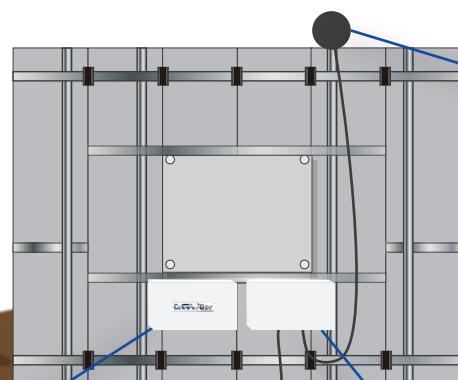
このたびはウェスタ製品をご採用いただき
ありがとうございます、円滑な設置作業に
向け本書をよくお読みになり、現場での事
前準備をお願いいたします。



■近隣様使用イメージ■



■サイネージ裏側■



マイクロホン

セットアイテム



コネクトボックス

自動 ON/OFF の曜日
タイマー、通信端末、
STB(PC)、UPS 等を
搭載した配信システム。



振動センサー

振動を計測するための
センサーです。水平で
堅い場所に設置して下
さい。

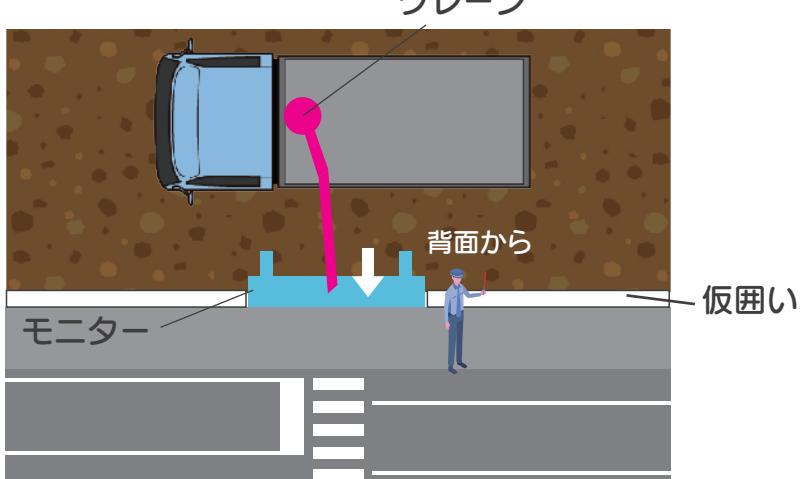


騒音振動計ボックス

騒音振動計は、サイネー
ジの PC ボックスの隣
に単クランプで設置し
ます。単管はお客様で
ご用意ください。

モニター設置作業の下準備

■上からみた仮囲い■



①ユニック車で設置の場合、
仮囲い背部にユニック駐車
スペースが必要



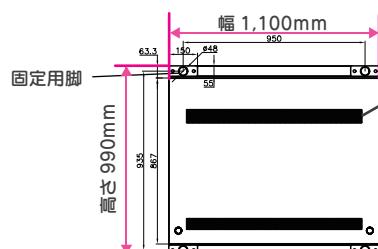
②ベルトスリングが当る
為、サイネージ上部の
アドフラットは外して
おいてください



小型チェーンブロック

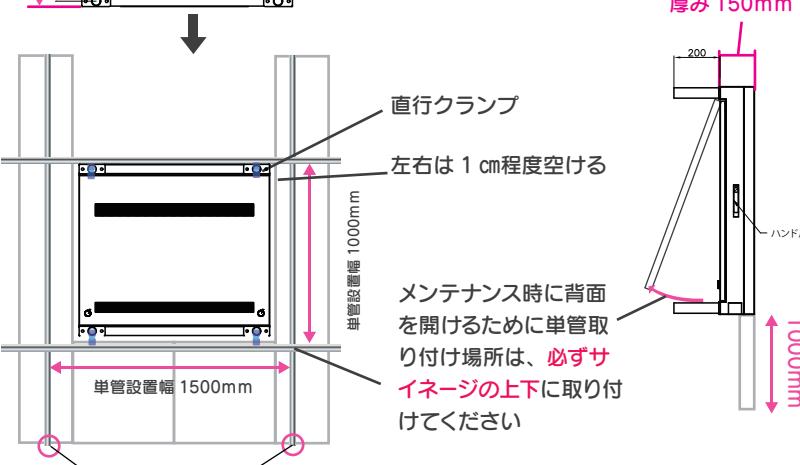
※ユニック車使用できない場合は、
使用して設置願います。

■サイネージ裏側■



内部ファン排気口

高輝度液晶を冷却するため、内部で
ファンを回しており稼働時に75db
程度の動作音が発生します。



建地単管は移動調整する場合がありますので
埋め込まないでください

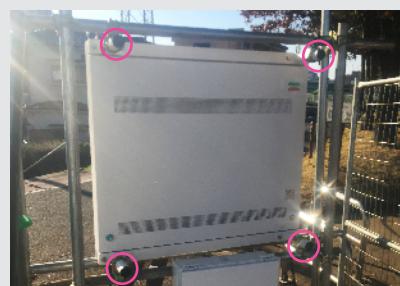
仮囲い裏側のスペース確保

43インチ朝礼用モニターは重量約80kgです、小型チェーンブロック、またはユニック車を仮囲いの裏側に付け、クレーンを使って設置します。設置当日は最低2名ほどとびさんのご協力をお願いいたします。通行人の安全の為、ガードマンを道路側に配置ください。

単管の事前配置

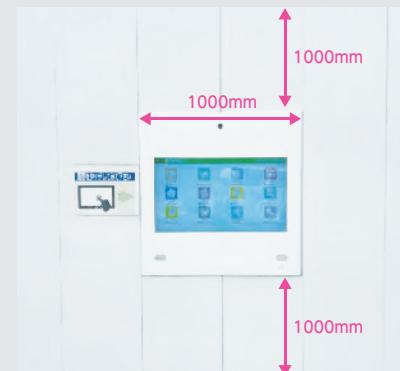
左の図のように設置箇所へ予め単管を
ご用意ください。

※直行クランプを4つご用意ください



アドフラットの準備

下部に1000mmのアドフラットを2枚取り付けます。上部はサイネージを取り付けた後、1000mmのアドフラット2枚取り付けます。



クエスター株式会社
Questar Inc.

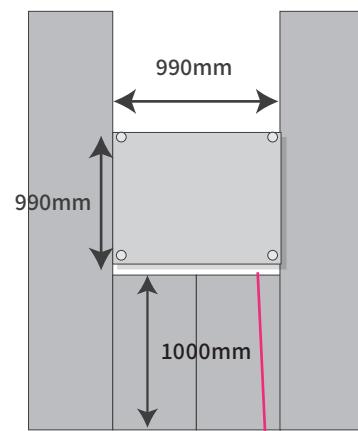
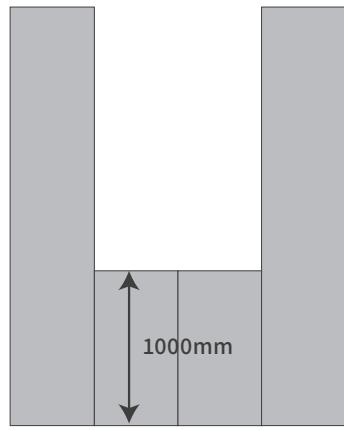
モニター設置作業の下準備

設置前にご用意ください

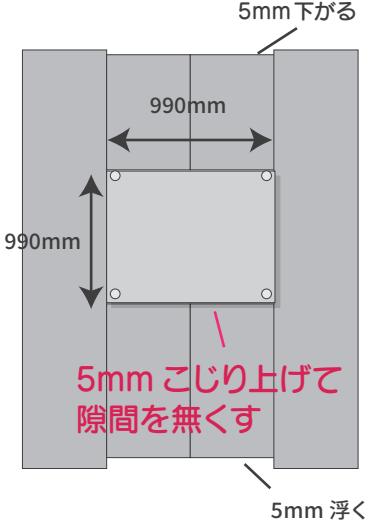
1000mm 仮囲い×4枚をご使用の場合

※この場合、全体で10mm短くなります。上下5mm程度上げ下げし調整してください。

サイネージの幅は
アドフラット2枚分
(1000mm)です



5mm 空ける



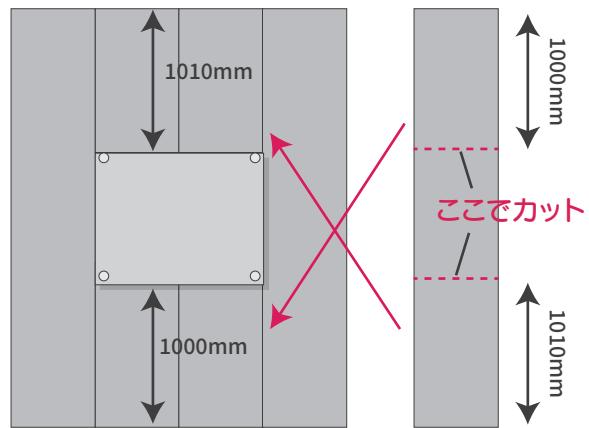
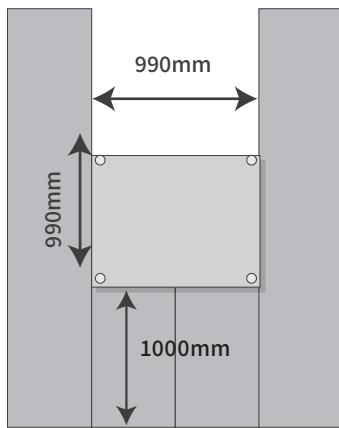
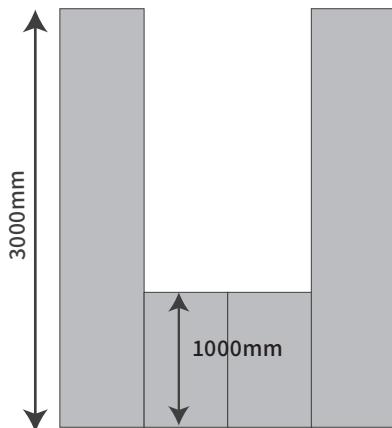
①縦地に1000mmの仮囲いを
2枚取付ます。

②43インチサイネージを取り付
けます。このとき仮囲いから
5mmくらい空けて取り付けま
す。

③上部に1000mmの仮囲いを
取り付けます。下の仮囲いを
こじり上げて、サイネージに
ぴったり取り付けます

3000mm 仮囲いをカットしてご使用の場合

※カット後上下逆に付けることでカット部分が上下になりきれいに設置できます。



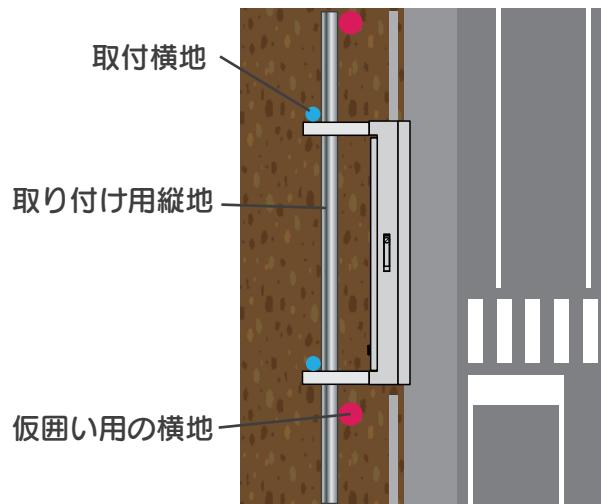
①縦地に1000mmの仮囲い
を2枚取り付けます。

②43インチサイネージを取り
付けます。

③上部に1010mmの仮囲い
を取り付けます。

単管の組み方

■横からみたモニター■



①仮囲い用横地の内側に縦地を取付けます

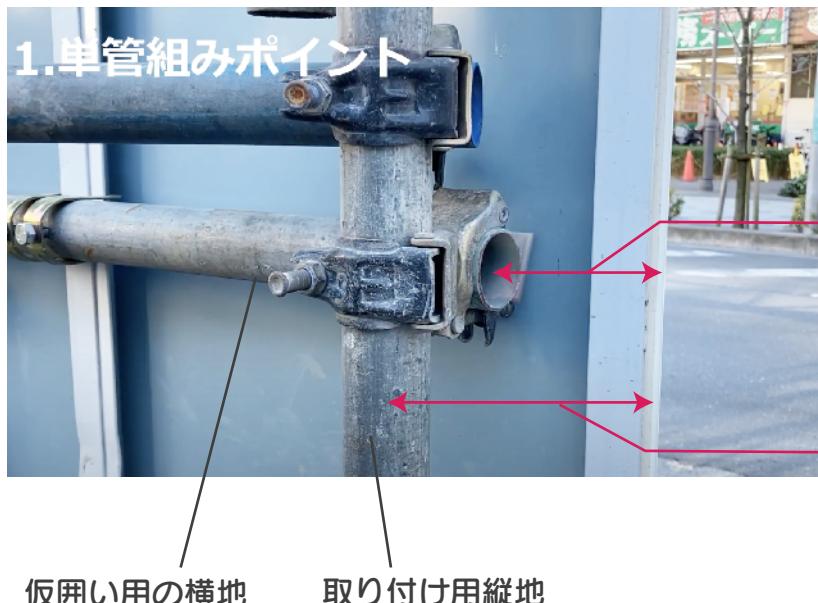
※両端の縦地の芯～芯は **1200mm** 程度開けてください。

②取付用横地を設置します

取付用縦地の内側に、取付用横地を設置します。

※各単管は直交クランプで止めます。

※設置日は単管を事前に組んだ状態で、仮止めをしておいてください。



単管組みポイント

サイネージと干渉しないよう、仮囲い用横地とサイネージの間は **70mm以上** 開けてください。

取付用縦地は、芯～仮囲いまで **100mm以上** あくよう設置してください。



モニターの設置

モニター設置手順



①チェーンブロックの準備

アイボルトに2mのバンドをチェーンブロックまたはユニックで吊ります。

※**バンドの中央どまんなか**になるようフック配置し吊ってください。



②吊って設置場所まで引き上げる

液晶パネルに傷がつかないよう、ゆっくり吊り上げます。

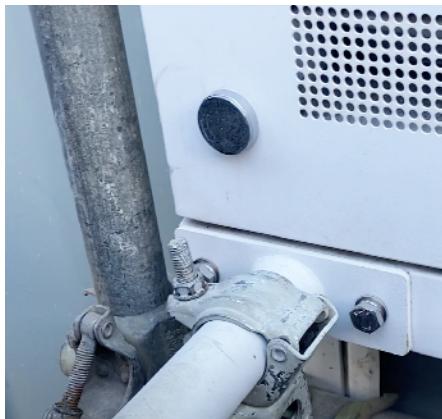
※サイネージを、作業所側に少し引くよう引き上げてください。



③下部仮囲いにサイネージを乗せる

下部の仮囲いにサイネージを乗せます。この状態で、サイネージの脚の上部に横地を取り付けます。

※横地は水平をとりながら取付ください。
※**サイネージの脚の上に横地がくるよう**取付ください。



④サイネージ脚に横地を取付ける

サイネージ脚の下部に横地を取付けます。

※横地は水平をとりながら取付ください。
※サイネージの蓋を開けるときのため、

サイネージの脚の下に横地がくるよう、取付ください。



⑤縦地用単管に横地を取付ける

サイネージの脚についている横地を、取付用縦地に固定します。

縦地の幅(芯~芯)は**1200mm以上**でお願いします。

※縦地は**垂直**をとり設置ください。



⑥横地の直交クランプを緩め前後調整をする

横地単クランプを緩め、前後の調整をします。道路側と作業所側側から調整ください。

面一になったらクランプを本締めします。設置が完了したらチェーンブロックを取り外します。

※本締めの後、少し前後位置がずれますので微調整をお願いします。



モニターの設置

配線手順



⑦PC ボックスを取り付ける

PC ボックスに単クランプを取り付けます。

※軽く固定されるくらいに締めてください。強く締めると、ボックス内の木が割れてしまいます。



⑧ボックス用単管を用意する

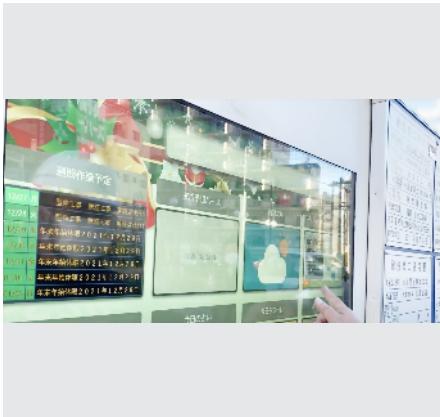
単管にしっかりと PC ボックスを固定します。

※騒音振動計ボックスがある場合、サイネージの脚の内側にはボックスが 2 個並びません。別で横地を用意ください。



⑨配線作業を行う

サイネージから出ている「表示用電源」を PC ボックスのゴムブッシュより入れ込みます。次に、「HDMI ケーブル」「タッチケーブル」をゴムブッシュより入れ込みます。マークがある、指定の位置に差し込みます。



⑩配線が完了したら通電し、確認をする

配線が完了したら、PC ボックスの電源ケーブル (100V) を差し込みます。ブレーカーを上げて通電します。モニターがつき、自動で立ち上がります。

※ブレーカーを上げて 1 回で電源が来ない場合、右下の UPS (無停電電源装置) の「power」ボタンを長押ししてください。



※ケーブルが引っ張られたときに、抜けないよう結束バンドで固定してください。上向きに押すように止めてください。



⑪最終確認

事故防止のため、外に出ているケーブルをまとめてください。「HDMI」「タッチケーブル」は 250 の結束バンドで止めれます。

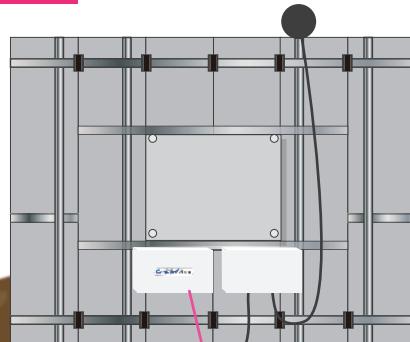
サイネージ本体から出ている電源ケーブルと PC ボックスから出ている電源ケーブルもまとめます。

コネクト BOX の取付

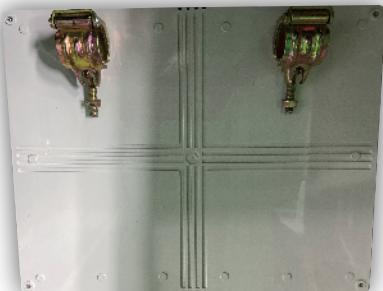
コネクトボックス
Connect-Box
Powered by Questar Inc.

防水コンセントをご用意ください

単独での 100V 電源をご用意
ください (電圧 95 ~ 110V)



モニター電源コード
タッチケーブル
HDMI ケーブル



取付は背面の単クランプで横地
单管に固定します



モニターケーブルは約2m

ケーブル長さは約2mです、朝礼
台の下を経由して、コネクトボッ
クスに接続しましょう。
※踏まれたりして抜けないようイ
ンシュロックで結束します。

サイネージは Docomo の LTE
通信端末を搭載しています。予め
通信状況をご確認ください。



駅前などの混雑した地域や山間部では通
信環境が悪く、通信できない場合があり
ます。(他のキャリアなら繋がりやすい等情報
があれば事前にご相談ください。)

発電機・電工ドラムは誤作動や電
圧低下の原因となりますのでご遠
慮ください。



・インバーター付きのUPSでも、発電機稼働時に
電圧が不安定で起動しないことがあります。
・発電機利用による不具合は保証できません。

サイネージの電源は分電盤の 100
V から取り、電圧は 95 ~ 110V
の間で供給してください。

AC95 ~ 110V 厳守



低電圧、高電圧になるとUPS(無停電電源装置)が
機能し内部のPCがシャットダウン、サイネージが
停止します。

電源は分電盤 (100V) からサイネ
ージ専用にご用意ください。たこ
足は電圧異常の原因となります。



他の電源と同じ電源ラインを利用すると、電圧
異常などの誤動作を起こしやすくなります。

できるだけ直射日光を避ける

コネクトボックスには PC が
搭載されており熱の影響を受
ける場合があります、トラブ
ルを避けるために、できるだ
け日陰への設置を推奨します。

騒音振動計 BOX の設置

BOX 設置の注意点

- 地上から 1m 以上離して設置願います
- BOX 盖を閉めてラッチを閉めること
- ※雨などにより BOX 内に被害がある場合がございます

マイクロホン設置の注意点

- 反射物からなるべく離す仮囲い上部にマイクロホンを出すのが良い
- マイクロホンは広い指向性があるため設置方向は問わないと上部に向けて設置願います。
- 風の影響が騒音測定において大きく影響するためマイクロホンには防風スクリーンを装着が必須となります。

※日本工業規格 (JIS) Z8731 に定める騒音レベル測定方法

騒音振動計 BOX

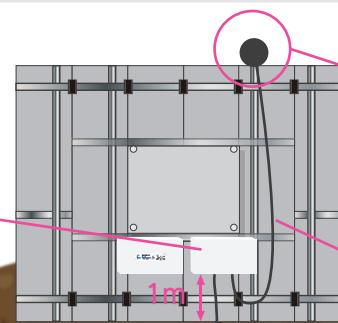


ラッチ

振動ピックアップ



- ケーブルの長さは 2.8m です。サイネージ下部地面に置きます。防水加工なのでそのまま置けます。



マイクロホン



- ケーブルの長さは 2.5m で単管の縦字に直交ランプで設置します。

振動センサー（ピックアップ）の設置に適した場所

- 十分に踏み固めた場所
- 堅い場所に設置する
- 傾斜及び凹凸がない水平面を確保できる場所
- 温度・電気・磁気等の外因条件の影響を受けない場所



設置に適さない場所

- 柔らかい草地、砂地など
- 斜面



※適正場所がない場合コンクリートブロック等を使用して振動ピックアップを設置すること



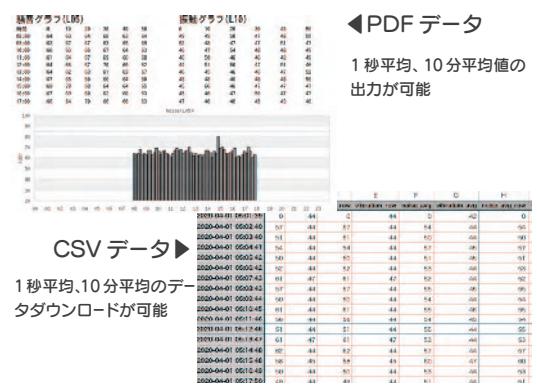
サイネージ表示イメージ



値の目安をイラストで分かりやすく伝えています。
※イラストで表示する点について特許取得

計測データのダウンロードについて

サイネージの管理画面上で PDF の帳票出力、CSV データのダウンロードができます。



サイネージ枠の貼り方

貼り付け手順

- 1枚目の巾木を張ります。角を作る部分は残します。
- 2枚目の巾木を張ります。
- カッターで切り込みを入れます。
- 谷折りにすると、カッターの溝が深くなります。
- 谷折りの状態にして、カッターで余分な部分を切り落とします。
- 3~4枚目も同様に貼って完了です。



貼り付け時の注意点

※カッターで手を切らないように十分注意してください。

※3の手順でカットするのではなく、切り込みを入れれば十分です。5の手順で、安全に余分な部分をカットします。

※アドフラットで手を切らないために貼ります。隙間が見えないように貼りつけて下さい。



きれいに見せる工夫



仮囲いを後ろからクランプで押して平らにすることで、きれいにします。



動作確認チェックリスト

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 映像確認
・現場名や映像のブレなどがないか | <input type="checkbox"/> 6. 電圧の確認
・95v~105v の間になっているか |
| <input type="checkbox"/> 2. タッチが行えるか | <input type="checkbox"/> 7. 配線が適正か
・転ばないか
・引っ張っても抜けないようになっているか |
| <input type="checkbox"/> 3. 音声ができるか | <input type="checkbox"/> 8. 通信状態の確認
・緑色ランプが点灯しているか |
| <input type="checkbox"/> 4. タイマー時刻設定 | |
| <input type="checkbox"/> 5. 計測デバイスが更新されているか | |

